

氏 名（本籍）	金 玉 实（中 国）
学 位 の 種 類	博 士（理 学）
学 位 記 番 号	博 甲 第 5356 号
学位授与年月日	平成 22 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
審 査 研 究 科	生命環境科学研究科
学 位 論 文 題 目	The Spatial Structure of Chinese Tourist's Destinations Network in Japan: An Analysis of Package Tours (日本における中国人の観光行動空間の構造 - 中国人訪日パッケージツアーの分析-)
主 査	筑波大学准教授 Ph. D. 呉 羽 正 昭
副 査	筑波大学教授 理学博士 田 林 明
副 査	筑波大学教授 理学博士 手 塚 章
副 査	筑波大学教授 理学博士 山 下 清 海
副 査	筑波大学教授 理学博士 村 山 祐 司

論 文 の 内 容 の 要 旨

今日、国際観光をめぐる状況が大きく変化している。とくに、従来主体であった先進国から発展途上国への流動に加えて、発展途上国から先進国へのアウトバウンド観光の発展がみられることが大きな変化の一つである。著者はこのなかでも、中国人の観光行動をとりあげ、日本における彼らの観光行動に注目した。さらに、国際観光流動については、国家間のデータを分析した研究が大多数を占めており、あるひとつの国内で外国人旅行者がどのような行動空間を有するのかについては不明な部分が多く残されている。本研究は、世界的にみても研究例が非常に少ない領域に意欲的に取り組んだものである。

本研究の目的は、日本における中国人の観光行動空間の構造的特徴を明らかにすることである。研究方法としては、パッケージツアーのデータを用いて、中国人旅行者が訪問する観光目的地間の空間的な相互関係に関して多変量解析を行い、その結果を、聞き取り調査で得られた訪日中国人観光の展開および観光行動の特徴などから考察した。主要な結果は、以下の通りである。

第一に、中国人による訪日観光の展開について、既存の統計資料や旅行会社での聞き取り調査、さらには日中両国の政策の変化に基づいて分析し、2000 年以降に急激に発展した傾向が示された。第二に、旅行中の中国人に対する聞き取り調査を通じて、中国人旅行者の属性や行動上の特質を定性的に解明した。とくに、ほとんどの中国人旅行者が初来日であり、またその居住地は東部沿岸地域であること、日本の先進性に興味を有していることが明確になった。第三に、中国で販売された日本滞在向けパッケージツアーを資料として、観光目的地の関連性に関する分析を行った。その関連性は、観光目的地の相互依存度によって示され、それらの数値を因子分析およびクラスター分析によって単純化した結果、日本における中国人の観光行動空間は 5 つの圏域から構成されることが示された。

この圏域構造のなかで最も重要であるのは、東京－大阪観光行動圏域である。中国人による日本への訪問目的は主として著名な観光地の訪問や日本製の高品質製品の買い物であるため、東京や大阪といった大都市

を中心としながらも、その周囲の訪問地を含んだ行動圏域が形成されたものである。一方、北海道（道央・道東）、九州・沖縄、北陸においても副次的な行動圏域がみられた。これらは、訪日中国人旅行者の量的な増加に伴って東京－大阪観光行動圏域から独立し、新たな圏域を構成したものとしてとらえることが可能である。とはいえ、中国人旅行者の日本での観光行動空間は、初来日者がほとんどを占める現在では東京－大阪観光行動圏域が中心となっている。この結果を、訪日観光の経験が長い韓国人・台湾人の観光行動空間と比較検討すると、今後、再び日本を訪問する中国人旅行者が増えるとともに、行動空間は広域化し、他の圏域の重要性も高まることが予測される。その一方で、巨大な人口を有する中国は、今後を日本を初めて訪れる旅行者を送り出す潜在力があり、そのため東京－大阪観光行動圏域の重要性も維持されることが考えられる。

審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、近年の国際観光で注目されている発展途上国から先進国へのアウトバウンド観光を扱ったものである。なかでも巨大な人口を有する中国人によるアウトバウンド観光は世界的にみても注目されており、一方、日本においてもインバウンド観光が推進され、中国人は重要な顧客と捉えられている。こうした時代背景において、本研究は日本における中国人旅行者の観光行動空間の特徴を解明した。とくに、東京－大阪観光行動圏を中心としながらも、その周囲の地域に副次的な行動圏が存在する地域の特徴を導出したことは、特筆に値する。またその結果を、実際に日本を訪問した中国人に対する丹念な聞き取り調査に基づいて、さらには韓国人・台湾人による観光行動空間の特徴と比較しつつ考察し、観光行動空間の構造の時間的変化の可能性を示唆したことは、発展途上国から先進国への国際観光に関する研究に新たな知見をもたらす貴重な成果である。さらに、外国人による目的国での複雑な観光行動空間について、パッケージツアーの旅程を資料として多変量解析を施し、その地域の特徴を把握した研究手法は、従来の観光地理学に新たな方法論を加えるものとして高く評価できる。

よって、著者は博士（理学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。